

十勝の豆、イモ、小麦…

健康効果をDNA解析

【帯広】豆、イモ、小麦など、地元の農畜産物の健康効果を遺伝子レベルで解明し、PRしようと、帯広畜産大と財団法人十勝圏振興機構などは、「DNAマイクロアレイ協議会（仮称）」を五月にも設立する。地場産品の付加価値を高め、販路拡大につなげるのが狙い。早ければ二〇〇八年度から、さまざまな農畜産物について、健康成分の解明に取り組み予定だ。

健康効果を調べるのに「DNAマイクロアレイ」し、臓器の細胞の遺伝子を使う方法は、薬品開発で「法」実験用マウスに食べ物の活動状況を調べ、食品一般的に使われている物を採取させた後、解剖の健康効果を予測する。

例えば、ジャガイモをマウスに食べさせると、コレステロールの分解遺伝子が活発になることから、ジャガイモにコレステロールの低下をもたらす効果のあることが推測できる。

帯畜大や十勝圏振興機構などは〇五年度から三年計画で、文部科学省の「都市エリア産学官連携促進事業」の委託を受け、年間約一億円の委託料を使ってマイクロアレイ法によるジャガイモなどの健康成分の解明に取り組んでいる。この事業には特定企業が参加しているが、より多くの企業にも参加してもらうようと、協議会を設立することにした。協議会にはこのほか、自治体職員や帯畜産大の教授らが参加する。協議会は本年度、北海道経済産業局の補助を受け、道庁に設置して活動する。企業を対象にマイクロアレイ法の勉強会を開くほか、都市エリア事業で健康成分を確認したナガイモなどについて、商品ニーズを探る市場調査も行う。

帯畜大など
協議会設立へ